

ひらほく新聞



「ひらほく新聞」で検索!
★感謝で向かう継続13年目へ★
<http://www.hirahoku.com/>
☆ぜひ、バックナンバーをどうぞ!

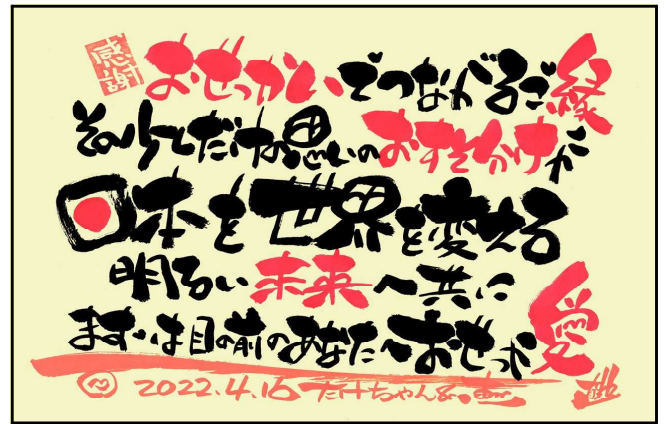
発行所 読売センター平塚北部(ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

先月4月16日に開催された『おうち de 「ライブ」 Zoom 講演会』に参加。主催の名古屋・名城大学教職センター・竹内英人教授は、実はかなりのおせっかい(笑)。ゲストはこれまで当紙に3度、書籍紹介等でご紹介してきた、一般社団法人「おせっかい協会」会長の高橋恵さん。250名超えの参加、素晴らしいエスコートのたけちゃん先生との「愛あるおせっかい」のお話で盛り上がった、あっといふ間の90分。珠玉のメッセージ5選を中心に紹介します。

たけちゃん先生

名城大学で未来の中高の数学の教員を養成している竹内英人教授は、啓林館・中学、高等学校、数学教科書著者フォーカスゴールド Focus Gold 代表執筆者、その他著書多数という「数学の神」。そんな数学界のカリスマだが、名古屋B級グルメ会長、名古屋スウィーツ男子の会長長など、意外な素顔もある。そして、コロナ禍の中、たけちゃん先生は2020年の10月から今日まで一日も休むことなく、毎朝五時半からZoomで全国の子どもたちを相手に無料学習室を開いているという激アツなおせっかいさん。今回のような『おうち de コラボ』イベントも定期的に開催。そして、あらゆる情報を【学びのお裾分け】として、SNSへのアップを継続中。

★終演後、想いを込めて一筆!



高橋恵さん

1942年生まれの80歳。3歳の時父が戦死、26歳の母のもと3人姉妹の次女として育つ。広告代理店に勤務、結婚退職後、2人の娘の子育てをしながら、様々な営業に従事、トップセールスを記録。40歳で離婚、42歳で当時高校生の長女と共に、ワンルー・ムンションで(株)サニーサイドアップを創業。その後、長女に託した同社は、2018年に東証一部に上場。60代は長女を助けて孫育て、70代となった2013年に、一般社団法人「おせっかい協会」を設立。全国各地の学校、商工会議所、企業などで講演活動を継続。世界中が「やさしいおせっかい」であふれ、社会が笑顔でいっぱいになることを心から願っている。

珠玉の言葉5選

経験・行動に基づいて生まれた、数多くある恵さんの珠玉の言葉より、たけちゃん先生が選んだ5つ。

病院より美容院

「ひらがなで書くと「よ」の字が大きい小さいかの違い。大幅な赤字となつていく医療費。病院に行つて変な不安材料をもらつてくるよりも、どうせなら美容院へ行つて、気持ちをスッキリ、元氣(はげ)刺(さ)となつたほうがいい。「身長がなくても体重がある。健康であれば何でもできる」私も80歳になつても毎月、ツメの色を変えて楽しんでる。

即速行動

即行動以上の「即速行動」。私はすぐ動かないとガマンできない性格。多くの人は頭が良く考えすぎて行動ができない。私は考えないからすぐ行動する。そして、失敗してもそこで止めない。それを生かしてすぐ次へ行動する。

言つてみる 行つてみる やつてみる

たとえば飛行機の中で、隣の方に搭乗後すぐに笑顔で挨拶すれば、ずっと気持ちも身近になり、長い旅の時間も気楽になる。

おせっかいの原点

母が娘3人を連れて一家心中の瀬戸際まで追い込まれたとき、ガラス戸に挟まっていた一枚の紙切れ。そこには、「あなたには三つの太陽(子ども)があるじゃありませんか。今は雲の中に隠れていても、必ず光り輝く時がくるでしょう。それまでどうかくじけないで頑張つて生きてください」と書かれていた。

窮(きんじょう)状(じょう)を見かねた近所の方からの言葉に、母は、ハツと気がつき、私たちを抱きしめてくれた。人間のちよつとした優しさには、人の命を救うほどの力がある!この時の強烈な印象、そして一家を養うために身を粉にして働く母の姿が「原点」となった。

地知る、我知る

「天知る、地知る、我知る。どんなに貧しくなろうとも、心まで貧しくなつてはいけません」「あなたには、あなたのいいところがあるじゃない」

学カよ、人間カ

これまでの数多くの実体験を通して感じる私の結論。学力だけの世界ではなくて、これからの時代は特に「人間力」が大切。多くの人と接するほど、多くの人の学びがあり、多くのおせっかい体験によつても人間力が深まる。

どんな時でも人を想う心さえあれば、たったひとりの言葉でも、たった一枚の紙切れでも、人を救うことができる。人間関係が希薄になつた現代だからこそ必要となる、誰にでもできること。余計なことと思わずに見返りを求めず、損得勘定抜きに目の前の人をちよつと笑顔にするだけでいい。(致知出版社書籍より一部引用)

■全国の都道府県に次々に支部ができています。「愛のおせっかい活動」を共に広めていきましょう。

夢の叶え方

4月中旬のある朝、偶然クラフハウス Clubhouse（音声配信SNS）で、ニューヨーク在住のジャズ・ミュージシャンで作曲家・プロデューサー・ピアニストの **Misty**（ミギー）さんと、**宮嶋みぎわさん**ご本人が、自らの成功体験を語られている番組を聴いた。

3歳でピアノを始め、その幼少期からの類い希な音楽センスで中学時代、作曲部門で全国優勝。それでも音楽家を目指す気はなく、高校は進学校へ。

上智大学で教育学部を専攻。そこで親友にむりやり連れて行かれたジャズサークルで、運命のビッグバンド（管楽器を主体にした15名以上のジャズのオーケストラ）と出会う。そして、独学でジャズを習得、人気ピアニストとなる。

大学卒業後、プロを目指すのではなく、リクルートに就職。社会人バンドでジャズを続けていたが、有名誌編集デスクで発信する仕事でも、やり甲斐を失った。

そして、「音楽のほうで自分の持っているメッセージを伝えられる」と、音楽の道を選び、2004年3月に30歳でリクルートを退職。退職金生活で徐々にピアノや作曲、ビッグバンドを教える、という仕事が増

えていき、音楽コンテストの審査員の仕事もきた。

そして、運命の出来事。

2008年2月、老舗ジャズクラブ『ヴィレッジ・ヴァンガード』を本拠地とする、ヴァンガード・ジャズ・オーケストラ（略称VJO）が、一週間公演することを知り、みぎわさんは初めてニューヨークを訪れた。

零下15度という極寒のなか、1時間並び、最前列へ。初めて生で観る世界の演奏に、全身に鳥肌が駆け巡り、あまりの感動でポロポロ涙が止まらなかつた。

そして、翌日もまた翌日も同様に並んで聴いた。3日目、泣きながら五線譜にメモを取っている彼女にサクソ奏者が声をかけた。カタコトで自己紹介をする、リーダーと話すチャンスが到来。VJOの本ツアーの企画をお願いされた。運命の出会いだった。

そこからがものすごい！できない英会話をわずか1年半ほどで習得。ビジネス英語で会話できるようになった。現在、効率的な勉強法なども発信している彼女の、この努力の本気度は想像を絶するものがある。

そして、VJOの代理人となり、2009年12月、『ブルーノート東京』での公演が実現した。その後、

異例のVJOの副プロデューサーとなり、2度のグラミー賞ノミネートも。

2014年に「ミギー・オーグメント・オーケストラ」をニューヨークで結成。オリジナル曲を多数手掛けている。

2019年から東日本大震災で人生が変わった方々のインタビューを始めた。先日4月20日、そのプロジェクトの一環として、インタビュの方々の思いを盛り込んだコンサートが、ニューヨークで開催された。

有難く動画配信されており、視聴可能。

◆ぜひアーティストにお礼の投げ銭を↓



楽しんで、明るく語るみぎわさんだったが、その凄すぎるストーリーにこちらもまさに鳥肌状態だった。次々に有り得ない奇跡を起こした彼女を突き動かしたものは何か。

単に音楽に対する情熱だけでは語れない。リクルート時代に得た能力も、その後のプロデュース業務等に大きな力になったようだ。

才能だけで成功するものでもない。自らを内観し、本当に向いていることを見極め、あとは目標を定め、できる！と信じて邁進するということか。

4月24日、（作家の三浦綾子さんの初代の秘書を務めていた）自身の母、**宮嶋裕子**さんの誕生日に、以下のようなメッセージがあった。

「私の人生は最終的に何か素敵なものに導くという深い信念を持っている。厳しいハードルを乗り越えてきて「何があっても最終的には大丈夫！」と自分の人生に対して思っているのは、母の影響だと思うのです。

第二次世界大戦の直後に生まれて、戦争の影響による貧困・差別・不条理を経験し、でも三浦綾子さんの秘書をしたことで人生に希望を持つようになり、31も癌も経験したのにイキイキと70代の人生を駆け抜けている母、とつても面白い人です！今日はそんな母の誕生日！ママうえ、お誕生日おめでとう！

世界中の人みんなが、母のように分裂より共存・協調を選ぶ人であれば、戦争は起きず、平和な世の中になるのに、と思います。」

くしくも翌25日は、三浦綾子さんの**生誕百年記念日**。母・裕子さんがブログに特集していることを知り、拝読。みぎわさんが幼い頃から三浦綾子さんの身近で育ったことを知った。

その夜、ニューヨークのみぎわさんが、日本の裕子さんにインタビュー対談。

「綾子おばちゃん」と呼び合い、懐かしい思い出に、貴重な教えがたくさんちりばめられた、母娘の美に和やかなひとときだった。

普通の雑貨屋をやっていた綾子さんが、懸賞小説に応募した、原稿用紙千枚。最初は無理と思ったが、「はじめの一枚、はじめの二行」と毎日少しずつ書いて完成、入選した。「はじめの

一歩が道を開く」という名言が残っているという。特別な才能ではなく、病弱でも極寒の北海道で日々粛々と書いていた。その「前へ進む力」、「行動力」をみぎわさんは、自分の家族ごとで聞いて育ったのだ。

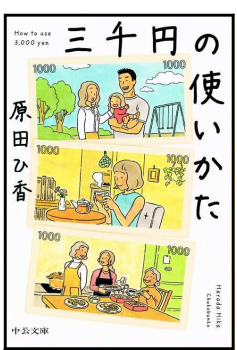
忘れ物が非常に多かったというみぎわさん。反面、凄いい集中力があると理解し、「放牧」して育ててくれた。音楽家・みぎわさんの原点は、母と、そして三浦綾子さんにあった。

一律の型にはまる必要はない。自身に自由に与えられたうちの最大限の方法で「一途一心にやりたいこと」に向き合う」という、ひたむきな素晴らしい姿勢。

彼女の場合、「社会貢献」への熱意も大きなキーマンだった。音楽家を目指す後人のために「出世払いプロジェクト」も企画。有難く、じつとしていられない鳥肌を受け取った。（終）

三千元の使いかた

編集後記



知識が深まり、絶対「二元」もとれちゃう「節約」家族小説（700円＋税）。

就職して理想の一人暮らしをはじめた美帆（貯金三十万）。結婚前は証券会社勤務だった姉・真帆（貯金六百万）。習い事に熱心で向上心の高い母・智子（貯金百万弱）。そして一千万円を貯めた祖母・琴子。御厨家の女性たちは人生の節目とピンチを乗り越えるため、お金をどう貯めて、どう使うのか？

作家の**垣谷美雨**さんが、絶賛！「この本は死ぬまで本棚の片隅に置いておき、自分を見失うたびに再び手に取る。そういった価値のある本です」とのこと。後書きに解説を寄稿。

実は「お金」に関する問題は、避けては通れない一生ものだが、日本の義務教育では「お金」に関して詳しい教育はされていない。この本には、あらゆる年代の方に、それぞれの立場、境遇でぜひ読んでいただきたい最幸の教えが満載だ。

今年には沖縄が本土復帰50年を迎える節目の年。今回のNHK朝ドラ「ちむどんどん」の意味は「胸がワクワク高鳴る気持ち」。

大好きなことに向き合い生まれる絶大なパワー。ただ、それ以前に「行動を起こす」ことがなければ、何も始まらない。その意味で、**高橋恵さん**、**宮嶋みぎわさん**、お二人とも多くの有難い母の教えが大きく、「行動力」の部分でも共通する。さらに、自身にできる形での「社会貢献」という、向かう方向性も同じだ。

恵さんに話すと、ニューヨーク在住の姪御・倉本美香さんとみぎわさんが知人同士だったと知る。ここでもまたご縁が繋がった。

ある行動、考えなどが、ある一定数を超えると、これが接触のない離れた場所の同類の仲間にも伝播する「百匹目の猿現象」という教え（架空の物語）がある。

蔓延防止解除後も続くコロナ禍、他人事ではない海外の紛争、日常に響く各種値上げ…。日々伝えられるのは暗い話題が圧倒的。明るい笑顔に繋がる話題が、それ以上の数、全国各地へ伝播していくことを祈る。自らできることで可能な社会貢献の一助として。